

＜第 5 回 竜神地域会議 会議録＞

日 時 令和 7 年 8 月 26 日（火） 18:00～19:20

場 所 竜神交流館 多目的ホール

出席者 委 員 13 名

事 務 局 吉澤支所長、中野副支所長、松原副主幹、鈴木担当長

1 報告事項

- (1) 第 4 回竜神地域会議会議録について
- (2) 安全安心なまちづくり「交通安全対策事業」の進捗について
 - ・移動式赤色回転灯を活用した危険箇所での交通安全啓発
⇒9/22(月)竹下自治区で実施予定
 - ・交通安全危険箇所マップの活用について
⇒小中学校での活用調整状況の報告
 - ・スマートモビリティインフラ、多機能カーブミラーの設置箇所検討状況
- (3) 高岡 4 地域合同事業の進捗について
 - ・名古屋大学減災館防災バスツアー実施報告
28 人参加（子ども 17 人、大人 11 人）
 - ・ひまわりの街「未来万博 2025」への出展報告

2 協議事項

- (1) 次の提言に向けて竜神地域が取り組むべき地域課題について
 - ・前回までのまとめと事業化方針について
- (委員) 交通安全の取組では成果を評価とあるが、成果が何になるのか。例えば事故件数の数値に対し、それをどれだけ減少させるかという目標があるなら評価になるが、それがなければ、取り組んでも変化がないなと感じてしまう。もう一点、町内会を脱退したいという声が増えているという話題をテレビ番組で取り上げていた。町内会の役割は 1 番がゴミ捨て、2 番が防災だった。何か起こったときに町内会に入っているといいことが色々あるよという紹介があったが、具体的で非常に良いと思う。ただ防災ハンドブックを作って、使われていないから何とかしましょうで終わってしまっは、実際の行動にはつながらないのではと思う。
- (事務局) 市の計画で成果を評価するには、本来は、計画の当初に成果指標を設定しておくことが望ましいが、実際には数値が取れるかどうかや、取組との因果関係等がはっきりしているかなど難しいことが多い。成果を評価するとしているが、例えば主観的にはなるが、アンケートを取ったり、皆さんの意見を聞いたりして、何らかの反省の上で進めたいと考えている。防災ハンドブックについては、情報の更新だけでなく、使ってもらえるような仕組みまで含めて考えていきたいと考えている。
- (委員) スマートフォンのバナー広告について、自分たちが実際に広告を見ないので効果が実感できていない。閲覧数が増えているという報告は聞いたが、閲覧が増えたら効果が出るかということに疑問があるので、予算はバナー広告で確保し、執行時には

変更することは可能か？

(事務局) ほかに良い取組があれば内容の変更は可能である。

(委員) 安全・安心なまちづくりをするのか、交通安全対策事業をするのかどちらでしょうか。交通安全対策事業であれば事故件数が成果指標になり、安全安心なまちづくりであれば住んでいる人の意識が成果指標になると思う。何を目指すのかがよくわからない。

(事務局) 何で成果を測るかということですが、例えば 2 年に 1 回実施している市民アンケートで、安全安心に関する意識の設問への回答結果や、ヒヤリハットの件数、事故件数などが利用できるが、意識と数値の両方の側面で見ている。

(委員) 交通安全対策が目的であるなら、事故の減少が指標であるし、心のまちづくりが目的なら心理面の指標であるし、どうつながっているのかよくわからない。

(事務局) こちらとしては、実際の事故の減少と、住民の感覚としての安心の両方が大事であって、どちらかが最終ではないのではと思っている。

(委員) 事故を減らしましょうと言ったら、数字を減らすことが目標で、住民がどう感じるかは別の話だと思う。安全安心なまちづくりの方は、住民が活動した結果、住民が実感して安心できるようになったということではないかと思う。

(事務局) 事業名として広いことを言っているから、成果を測るにはもう少し絞った方がよいということでしょうか。

(委員) 交通安全という道具を使って安全安心なまちづくりをしたいってことですかという問いかけです。

(委員) 自分としては、最終的には安全安心なまちを作ることが目標だが、そのための手段として交通安全に取り組むということだと考えている。

(委員) 評価尺度として、事故件数や住民の意識は考えていないのか。

(事務局) 安全安心かどうかはいろいろな要素があるので、何がどう結びついているかというのは評価しにくいと考えている。事業としてはできるだけ狭い尺度で評価していく方がよいと考えている。

(委員) 交通安全なら事故が減っていくというイメージか。

(事務局) そのように考えている。

(委員) 事業の目標は一番大切なことと思う。自分としては、人がどう感じるかということと、事故を減らすことを一緒にレベルで書くのはいかがかと思う。

(事務局) 今後事業を評価する段階では、事務局から評価の尺度を示して意見を伺いたいと考えている。

(委員) 事故の件数という話になったが、交通事故が起こるような大きな交差点での事故と、この事業での取組は全く結びついていないと思う。よって交通事故の数が減ったから評価するということでもないような気がする。自分たちの住むエリアでの事故やトラブルが減るというために取り組んでいるもので、交通安全に対する意識が浸透したということによいと思う。

(委員) 同じ意見です。

(委員) 意識とは別に、交通の流れが変わって事故が増えたり、減ったりすることは考えられるので、交通の状況と事故の関係を解析してもよいかと思う。

(委員) 先の意見で、自分が目標を立てて管理するといったのは、それがないと正しく評

価できず、次にどうしたらよいかははっきりしないから。例えば、道路を広くしたいという場合に、目標があるから道路を広くするという予算もとれるが、目標がはっきりしていないとどこまでやるのかははっきりしない。だから目標を決めるべきだと考える。これまでの議論は交通事故をみんなが減らそうという意識になっていけばよいという流れになっている。

(事務局) 意識も向上し、実際の事故の件数も減っていくことが大事だと考えている。事業の評価の際には、それぞれの取組の細かい部分で評価するものと考えている。

例えば、赤色回転灯の活用では、通行車両のスピードが抑制されたとか、ヒヤリハットが少なくなったとか、そのような観点で評価している。

(委員) 数字は必要だと自分は考えている。この 2 年間で取り組んだものの数字を出して、それが積み重なって、目標として大きなテーマの数字につながると考えているので、それぞれの取組にそれぞれの目標を持っていないと事業を評価できないのではないかなと思う。

(事務局) 本来は、そのように取組ごとに細かく目標設定して、それぞれ評価したうえで次につなげることが良いと思うので、できるだけそうした形に近づけて、事業全体の評価にしたいと思う。

4 連絡事項

- (1) 交通死亡事故多発非常事態宣言
 - ・事務局より説明
- (2) 地域会議委員アンケートについて
 - ・事務局より説明

★次回開催

9 月 30 日(火) 午後 6 時 0 0 分～